

目的 ライフスタイル的な考え方に基き、食生活に関する態度や関心度と、食品のイメージの嗜好との関連を調べた。すなわち、食生活に関する態度や関心度の質問に対して、どのような心理的反応を示すかをもちに人のタイプを分類し、各タイプの人々が食品のイメージに対してどのような嗜好性を示すかを明らかにしようとした。

方法 食生活に関する態度、関心度の質問を多数の質問設定した。各質問に対する反応を評定法により調べた。この調査結果に対して因子分析法を適用し、因子変荷量と因子得点をもとに人のタイプを分類した。次に16品目の食品のイメージをSD法により調べた。この調査結果に対して因子分析法を適用し、食品のイメージの基本的因子を抽出し、次に基本的因子に対応する代表的な食品を、因子得点をもとに選定した。食生活に関する態度、関心度の調査から分類された人のタイプと、食品のイメージの基本的因子に対応する食品の嗜好性との関係を調べた。被験者は共立女子大学、家政学部食物厚科の3年生、95名である。

結果 食品のイメージの基本的因子として「豪華さ」、「味覚性」、「品質性」、「親近感」の4因子が抽出された。食生活に関する態度、関心度の因子分析の結果、「興味関心志向型」、「手作り志向型」、「精神過敏ストレス型」、「非習慣保守志向型」、「マイペース志向型」、「節約経済志向型」、「嗜好敵対関心志向型」などのタイプに分類された。例えばマイペース志向型のタイプの人々は豪華なイメージの食品に嗜好が低く、その反対に非マイペース志向型のタイプの人々は地味なイメージの食品に嗜好が低い傾向を示した。